

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月9日(木)
- 3 開催場所 可児工業高校 同窓会館
- 4 参加者

委 員	大杉 守平 様	中恵土自治会連合会会長
	古山 友生 様	可児市立図書館長
	各務 真弓 様	可児市多文化共生センター事務局長
	前山 香織 様	元本校PTA役員
	今井田 みゆき 様	元本校PTA役員
	日比野 光伸 様	本校同窓会副会長
学 校 側	中西 竜也 校長	
	古田 光 事務長	
	庄司 幸宏 教頭	
	熊崎 俊介 教務主任	
	三輪 武 生徒指導主事	
	林 貴康 進路指導主事	
	宮田 忠夫 工業部長	

5 会議の概要

(1) 授業参観しての感想

意見1： 生徒たちは、落ち着いて授業に取り組んでいた。生徒たちと教員の関係がフレンドリーに感じられ、コミュニケーションを大切にした授業が行われていた。

意見2： 授業中飲料水を机の上に出している生徒がいたが、学校として許可しているのか？

←コロナ禍から、感染防止のために授業中でも水分を摂取することを認めており、第5類移行後も継続している状況にある。

意見3： 掲示物がきれいに張られているなど教室内の整理整頓されており、学習に適した環境になっている。校舎外も整然としており落ち着いた雰囲気を感じる。

意見4： 廊下ですれ違う生徒が笑顔で挨拶をしてくれて大変好印象を持った。社会に出る前に基本的な礼儀・マナーをしっかり身に付けることはとても大切である。学力を身に付けさせると同時に、良好な対人関係を築くために必要なスキルを日常生活の中で身に付けてもらいたい。

(2) 本校に対する意見・提言

意見1： ヘルメットの着用が義務化される中、1学年についてはヘルメットを持っていることが自転車通学の許可条件であるため着用率が8割程度と高い一方、2，3年生にはなかなか浸透しない現状があることを聞いた。生徒の安全のために、是非この1学年への取り組みを3年間継続しヘルメット着用の普及に努めてもらいたい。

意見2： 18歳年齢の投票率が低いことが問題となっている。主権者教育を積極的に進めるなどして、投票に対する生徒の意識が高まるとよい。年間の指導計画の中に、主権者教育を位置付けるなど、計画的に実施することが求められる。

意見3： 本校では就職後3年以内の離職率が2割程度と全国的には低い割合になっているそうだが、離職した生徒を地元呼び戻す仕組みができるとよいのではないか。

←本校の傾向としては、離職する際に次の職場をすでに決めているケースが多い。離職した生徒の情報を把握し、地元就職するように働きかける仕組みを作るのは現状では難しい。

6 会議のまとめ

・委員からは授業において生徒が主体的に取り組む姿や、工業科で学ぶことの魅力などについて貴重な意見をいただいた。生徒と教員、生徒同士のコミュニケーションを重視し、対話重視の授業を展開し、真の学力を身に付けられるような指導を実践していきたい。

・ヘルメット着用については、努力義務の中で着用率を高めるための本校の先進的な取り組みに対して理解を得ることができた。今年度は、入院や命にかかわるような重大事故はないものの昨年度より交通事故件数は増加傾向にある。朝の登校指導等やキャンペーン活動などを実施することにより、ヘルメット着用に対する生徒への意識を高めていけるとよい。

・当校では高校卒業後、就職する生徒が約7割であることから、高校在学中に社会人として求められる礼儀作法を身に付けることはとても重要なことである。また、主権者教育や消費者リテラシーなどについても、在学中に計画的に学習することが必要である。卒業時において、社会に出る上で必要な様々な力やスキルについて再度検証し、生徒たちに充実した学びの場を提供できるように努めていきたい。